



## 世界で初めてのテレビ受像 「イ」の字から100周年



1926年12月25日、「日本のテレビの父」と称される高柳健次郎先生が、世界で初めて「イ」の字の受像に成功しました。今年は、その快挙から100周年となる節目の年です。高柳先生はその後、テレビジョン技術の基盤を築き、日本のテレビ産業の発展において先導的な役割を果たしました。テレビジョン技術が数々の日本一・世界一の技術や製品を生み出してきた背景には、高柳先生の「10年先、20年先を目指せ」という教えがあります。

「高柳記念未来技術創造館」(浜松キャンパス)に貴重な展示があります。  
開館時間は平日10:00~16:00(12:30~13:30除く)

## 電子工学研究所が創立60周年の 記念行事を開催しました

高柳健次郎先生の研究室を原点とする電子工学研究所は、新制大学で唯一の理工系附置研究所として1965年に設置されました。2025年10月には、創立60周年を記念して研究所内の見学ツアーや記念講演会が行われました。電子工学研究所は、地域と世界をつなぐ「知の拠点」として、研究・教育・産学官連携をさらに深化させ、次の100年に向けて挑戦を続けてまいります。



## 静岡大学未来創成基金

当基金では学生への支援や、老朽化した建物・設備の改修、研究者への支援事業などの充実を目的に寄附を募っており、保護者や卒業生、地域の皆様から多大なご支援をいただいています。

みなさまからのご寄附は、日々の教育・研究・学生支援などに活用されています



100円朝食プロジェクトで  
学生の朝活を支援



Giving Campaign 2025による  
学生への課外活動支援



教育学部附属静岡小学校への  
松馬文庫(自然科学関連図書)設置

未来創成基金  
ウェブサイト



ご寄附は  
こちらから

ゆかりのある学部  
にも寄附できます!



静岡大学未来創成基金ウェブサイト <https://kikin.adb.shizuoka.ac.jp>

静岡大学広報・基金課基金係 TEL:054-238-5183 E-mail:kikin@adb.shizuoka.ac.jp

//////////////////// アンケートにご協力ください //////////////////////

誌面に関するWEBアンケートにご協力ください。  
ご回答いただいた方の中から抽選で10名様に  
「静大オリジナル 消せる蛍光ペン(青・黄セット)」  
をプレゼントいたします!なお、当選者の発表は、  
商品の発送をもって代えさせていただきます。



青・黄セット!



左記二次元コードから  
アクセスいただき、  
WEBにてご回答ください。  
応募締切:2026年7月31日(金)

### 編集後記

今号では理学部を特集しました。難解と思われがちな理学の世界ですが、取材を進める中で、その面白さや奥深さ、そして理学を学ぶことで培われる力への理解が深まりました。今年度もサイエンスカフェやサイエンスラボなど、ワクワクするようなイベントが予定されています(詳細は1・2ページを参照)。ぜひご参加ください!



# SUCCESS

静岡大学広報誌 サクセス

Shizuoka  
University  
Current affairs &  
Connective paper for  
Every graduate  
Student &  
Staff

特集

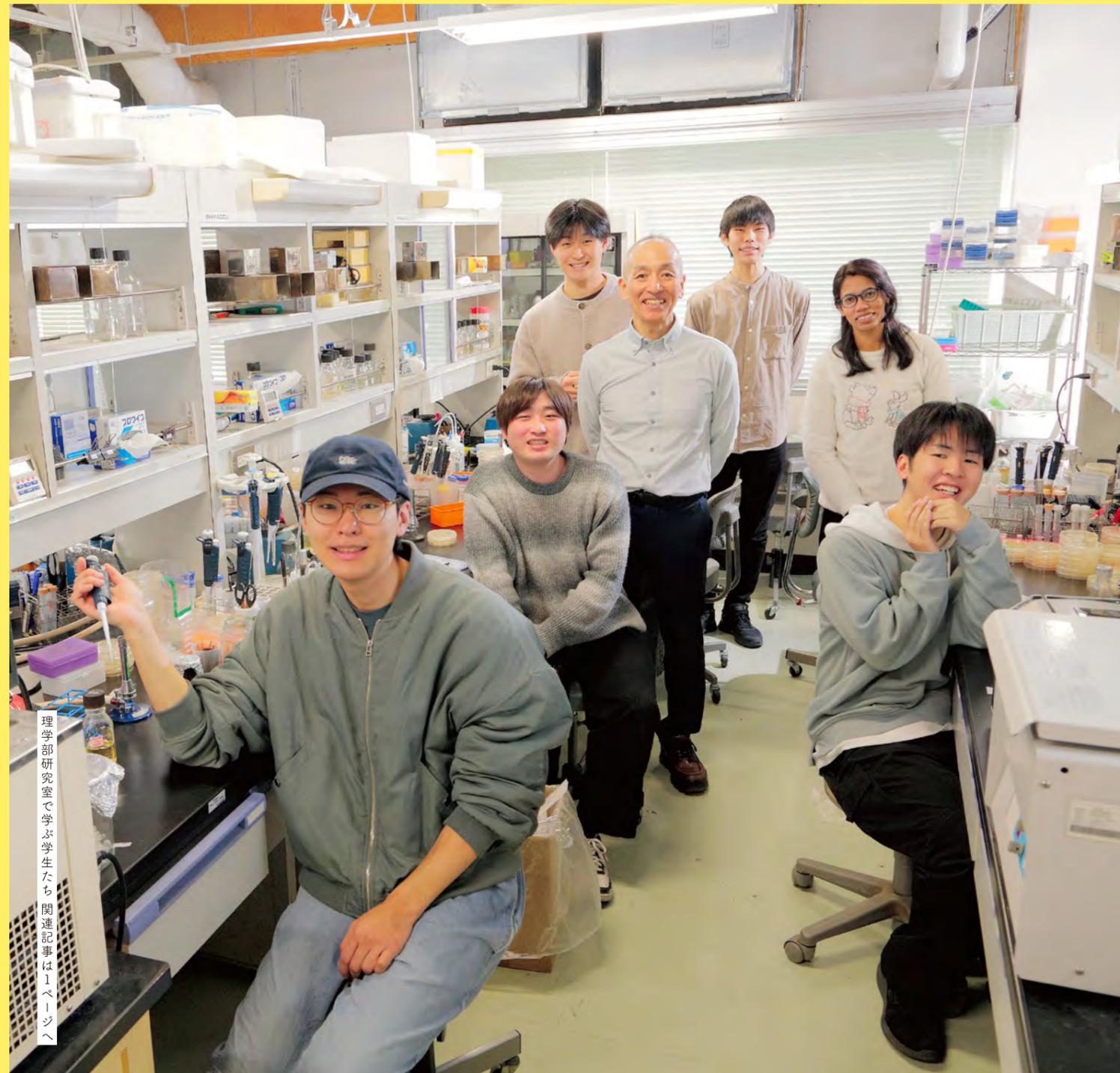
## 理学の面白さを伝えたい!

／静岡と世界のかけ橋となる人材を育成



35

Spring 2026



理学部研究室で学ぶ学生たち 関連記事は1ページへ

# 理学の面白さを伝えたい！

2025年の日本人研究者2名のノーベル生理学・医学賞と化学賞の受賞により、改めて「基礎研究」の重要性が注目されています。静岡大学理学部は、まさに「基礎研究」を学ぶ学部です。難解と思われやすい理学の世界を理学部の学びとともにご紹介します！

## 理学部長インタビュー

### 未知のものを明らかにしていく、 理学はその力を身につけることができる



理学部長 山本 歩 教授  
専門は分子生物学。  
これまで、DNAの動きを制御する分子機構の解明をめざし研究を行ってきた。

### 身近なところに 基礎研究が役立っている

多くの場合、すぐには役に立たず、応用方法がはっきりしない現象の原理・原則を追求するのが基礎研究です。しかし、こうした研究は長い目で見ると、社会に有益なさまざまな発明や新たな産業を生み出します。例えばインターネット通信やコンピューターには数学の素数や物理の量子力学が使われています。またコロナウイルスのワクチン開発には生物のDNAやタンパク質の合成機構が利用されています。

### 理学部が大切にしている論理的思考

静大理学部で取り組むすべての研究分野で大切にしていることは「論理的思考」です。未知の原理や法則を明らかにし、それらを人に説明する上で、論理的に考える力は欠かせません。理系に限らず、あらゆる分野で求められる重要な能力です。学生時代に身につけておけば、卒業後も大いに役に立つでしょう。

### 実社会で求められる 問題解決力を養う

論理的思考は実社会で役に立ち、さまざまな企業で求められています。ですから卒業生の就職先は非常に多様です。理学部で「何が正しいかを判断する力」や「自分で問題を解決する力」を養うことによって、すべての分野で活躍できる力を身につけることができます。

## フィールドは海！

地球環境の理解から人間の暮らしにもつながる  
海洋生物の分析

地球科学科  
宗林 留美 准教授

海水中の化学成分とプランクトンや微生物の調査のため、毎月船で駿河湾へ出かけます。海洋生物の分布は、地球環境の変化への気づきになります。また、プランクトンのアスタキサンチン等の天然物質の分析は、養殖や人間のアンチエイジングへとつながる可能性を秘めています。



## 美しい 数学の世界！



身近なランダム現象も確率論で証明

数学科 岡村 和樹 准教授

一見するとでたらめに見えるものにも規則性が潜んでいます。例えば、サイコロ投げ理論や待ち行列理論、株価の変動予測など…身近なランダム現象は確率論の手法で数学的に解明・分析できます。学生たちとの議論は、新たな発想に気づくことができるととても楽しい時間です！

## 測る！ ナノスケールで



電子の磁氣的性質とエネルギー変換を探索する

物理学科 広部 大地 講師

磁石に限らず、すべての物質は極めて小さな磁石を持ちます。この極小の磁石を用いて電気・熱・光などをナノスケールで制御する仕組みを、さまざまな実験装置を使って調べています。高速かつ低消費電力を特徴とした次世代の電子部品などの技術のもととなる現象を探っています。

## ワクワクを未来の種に

## 研究室の今！



クワガタのアゴの発達に関わる遺伝子を突きとめる

生物科学科 後藤 寛貴 講師

クワガタのオスの大きなアゴがどのような仕組みで発達するのか、ほとんどわかっていません。遺伝子の働きを抑えたときに、姿がどう変わるかを調べることで、その遺伝子がどのような機能を持っているかを明らかにすることができます。遺伝子レベルの実験でクワガタのアゴの謎に迫っています！

## 虫大好き！

## 細胞内で 起こる謎！

生命現象を分子レベルで理解する

化学科 山本 歩 教授



生物は栄養源が枯渇すると細胞分裂を停止し、静止期に移行します。静止期のガン細胞や病原菌は薬剤に耐性を示し治療の妨げとなっています。静止期の細胞内のDNAに注目して生物の環境応答の仕組みを理解することによって、ガンや感染症などの治療法の開発につながる知見が得られると考えています。



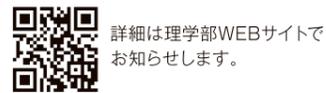
静岡大学理学部  
WEBサイト

### 2026年夏に開催！

### サイエンスラボ in 静岡大学理学部

中高生を対象とした研究室体験型イベント。理学研究の奥深さを、研究室の内側から体験できます。

- 日程 夏季オープンキャンパスと同日開催
- 場所 静岡大学静岡キャンパス
- 申込 WEB事前申込



詳細は理学部WEBサイトでお知らせします。

静岡県内の高校の理学部への訪問もお待ちしております。ご相談はサイエンスラボWEBサイトから。



英語によるプログラミング体験を実施した、創造理学部コースのデュア ガエル准教授

### 研究者に直接質問できます！

### サイエンスカフェ in 静岡

静岡大学の研究者が、毎回異なるテーマで科学研究の最前線をわかりやすくお話しします。



サイエンスカフェ  
WEBサイト

#### 2026年前期の開催日程

- 4月23日(木) 駿河湾からの贈りもの メタン！
- 5月28日(木) ミクロの世界のものづくり
- 6月25日(木) 金が小さくなると変わる！？
- 7月23日(木) サッカーと科学

時間 18:00~19:30(開場17:30)

場所 B-nest 静岡市産学交流センター

申込不要・参加無料  
各回150名(先着順)



多くの方が来場した放射科学教育研究推進センターの大矢恭久准教授の講演回

## 科学イベント参加者募集

アジアからの留学生が  
地域産業のグローバル化に貢献

# 静岡と世界の かけ橋となる 人材を育成

静岡大学と4つのインド連携校との学生交流

- SRM 科学技術大学 ●インド工科大学ハイデラバード校
- アンナ大学 ●カリガ産業技術大学



多くのABP留学生・卒業生が集まった10周年記念式典

卒業生  
430名  
以上

卒業後の  
県内定着率  
80%

日本人学生を対象に、学士課程においてグローバル・アジア特別教育プログラムも実施。海外企業研修などでグローバル人材としての教育を受けることが可能です。

- 学士課程は5カ国を対象、修士課程は16カ国を対象
- インド
  - インドネシア
  - タイ
  - ベトナム
  - ミャンマー

2025年で開講10周年！



アジアブリッジプログラム(ABP)は、静岡県内の企業や自治体と連携して提供される学位プログラムです。アジア対象国からの留学生を、経済的支援や地元企業でのインターンシップ実施などで、入学から大学生活、卒業後の就職まで一貫してサポートします。開講から10年、これまでに多くの企業・関係者の皆様にご支援いただきました。これからも、静岡とアジア、そして世界をつなぐ教育として、ABPをさらに発展させてまいります。

2025年10月スタート！



産業高度化を主導する日印共創人材育成プログラム(InSPIRE:インスパイア)は、文部科学省の2025年度「大学の世界展開力強化事業～グローバル・サウスの国々との大学間交流形成支援～」に採択されました。2025年度から5年間にわたって実施され、静岡を日印の高度人材循環の拠点と位置付け、日本とインドの学生が共に学び、研究することを通じて、地域と産業界に貢献する人材の育成を目的としています。



2026年に学生交流が本格化するSRM 科学技術大学

## 静岡とアジアで卒業生が活躍しています

### ABPのさらなる発展に期待しています

ヤマハ発動機株式会社  
人事戦略部長 和田 一美 様



ABPはこの10年で、多文化を学び、地域や企業に触れる貴重な機会を提供してきたと思います。当社でもABP卒業生が活躍しており、その柔軟な発想やコミュニケーション力がチームにより刺激を与えてくれています。これからもABPが多くの人の可能性を広げてくれる場として、ますます発展していくことを祈っています。



社内では多様な人材が活躍しています

## インド連携校・県内企業・自治体との人材育成に向けた取組みがスタートします

### 県内企業がインドでのフィールドワークに協力！

- 連携企業
- スズキ株式会社
  - 株式会社ヤマハコーポレートサービス
  - 株式会社小糸製作所
- 2026年3月現在

企業は、教材開発、インターンシップの提供にも協力します。今後、さまざまな業種の企業と連携を広げていく予定です。企業様のご参加をお待ちしております。

### スズキ株式会社 様

#### インドと共に成長しよう！

インドで1983年より四輪車事業を展開しているスズキですが、これまで以上にインドの多くのお客様に寄り添い、共に成長していきたいと考えています。インドは、2047年に先進国となり、2070年にカーボンニュートラル達成を目指しています。今、学生である皆さんが、インドの発展の主演です。InSPIREが、挑戦と飛躍の入口となることを期待しています。



自治体が、  
県内企業への  
就職・定着を  
支援！

#### 連携自治体

- 静岡県
- 浜松市
- 静岡市

2026年3月現在

### ベトナムで日本留学を目指す生徒対象に日本語学校を開設

ロンベツ外語・留学センター  
Vuong Hong Duc(ブオンホン ドウック)さん  
2020年 情報学部 情報科学科 卒業



ABPのおかげで、日本人学生との交流や日本文化の経験ができました。私にとって忘れられない大学時代です。現在はベトナムで日本留学を目指す生徒に日本語や、日本の国立大学向け日本留学試験対策も教育しています。今後は、ベトナムの地方にも日本語教育を広げたいと考えています。



熱心に日本語を学ぶ 生徒の皆さんと、中央がドウックさん



ホーチミン市にある日本語センター

### 静岡とベトナムをつなぐかけ橋となる銀行員を目指して

静岡銀行 国際営業部 国際営業統括グループ  
Dao Huong Giang(ダオ フォン ザン)さん  
2023年 人文社会科学部 経済学科 卒業



静岡大学で学び、静岡での生活を通して、地域社会への関心や地方財政への学びを深めることができました。また、ABPで、他国の学生と共に学び、議論する機会が多くあったことで、異文化理解力や協調性が自然と養われ、グローバルな視点を持つ人材として成長することができました。現在は多国籍の方々と仕事をする機会が多く、ABPでの経験が柔軟性・協調性として業務に活かされています。



現在の職場にて



在学中に経験した着付け

### 学部生対象 InSPIREソーシャルイノベーション教育プログラム

ソーシャルイノベーションを軸に、世界的な課題「カーボンニュートラル」をめぐる解決策と、その社会実装を日印の学生が共に探求する、約1年半のプログラム。授業は全て英語で行われます。インドへの渡航費等経済的支援も充実しています。



インド研修中の学生たち\*



国際連携推進機構長  
栗井光一郎 教授

人口が多く、目覚ましい経済発展を遂げているインドには多くの県内企業が進出しています。まだ日本人学生の少ないインドでの現地研修の経験は、静大生にとって大きなアピールポイントになるはず。本プログラムの学部生向け説明会には、多くの学生が参加しました。「インド留学はなかなか経験できないもの。大学のプログラムとして経験できるのはうれしい」という声が聞かれました。

### 5年間で日本とインド双方150名×150名の交流！

インドでのフィールドワーク(企業訪問など)

インド学生との県内フィールドワーク(日本文化体験や企業訪問)

日本とインド両国の学生による共創チームプロジェクト

大学院でも「InSPIRE カーボンニュートラル推進人材育成プログラム」を実施しています。

\*修士課程向けプログラムの事前活動

# 研究最前線

静岡大学は、「研究フェロー制度」および「若手重点研究者制度」を導入し、競争力のある研究の推進や世界で活躍する人材の育成に取り組んでいます。本号では、第6期（2025～2027年度）に選定された研究フェローから3名をご紹介します。

グリーン科学技術研究所  
情報学部 行動情報学科 教授

狩野 芳伸  
KANO Yoshinobu

研究フェロー



研究室ウェブサイト



## 人間の知能の仕組みを取り入れて 生成AIを使い・作り・超える

生成AIのように日本語や英語など自然言語をコンピュータで扱う「自然言語処理」の研究をしています。具体的には、嘘をつき嘘を見破る会話ゲーム「人狼」を自動プレイする人狼知能プロジェクトや司法試験の自動解答への挑戦など、さまざまな分野の共同研究を同時に推進しています。

言語は人間の知能の中核であり、「人間の知能を探求する」科学的な側面と、「人間と協調する知的システムを作る」工学的な応用が表裏になる挑戦的な分野です。人間の知能の仕組みを取り入れて、生成AIを使い・作り・超える。その成果を政治・医療・法・実験科学などさまざまな分野で実用化するのが目標です。

精神疾患の自動診断支援、インターネット世論形成過程の推測などのプロジェクトにも取り組んでいます。技術の進歩を取り入れ、さらに新たな研究に挑戦していきたいと考えています。

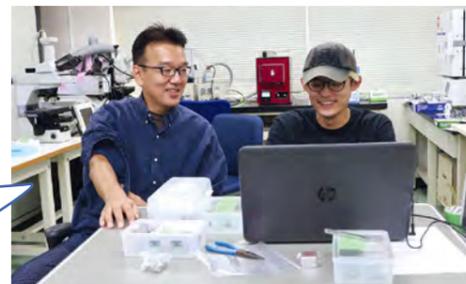


## 半導体材料の合成から 新機能デバイスの提案・開発に挑戦

青色発光ダイオードの半導体材料であるGaN(窒化ガリウム)に代表されるⅢ族窒化物半導体は、その優れた材料特性を生かした新しいデバイス開発が行われています。私たちの研究室では、GaNを用いた新奇デバイスの創生に挑戦しています。

最近では、GaNの一部のGa原子をB(ホウ素)原子に置換したBGaNを用いた、中性子半導体検出器の開発に取り組んでいます。放射線の一つである中性子は電荷を持たないため、直接電気信号に変換することが困難です。そこで、中性子捕獲断面積が大きく、中性子捕獲元素として用いられるB原子を含むBGaNに着目して研究開発を行っています。

新しい機能を持ったデバイスを作製することは基礎研究の醍醐味です。多くの研究者と競い合い、また協力しながら次世代の新奇デバイスの創生に向けて開発を行っています。



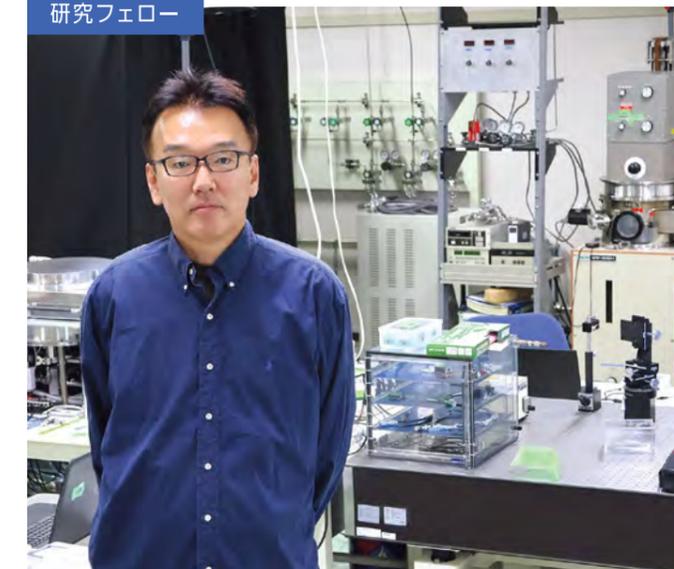
電子工学研究所  
工学部 電子物質科学科 教授

中野 貴之  
NAKANO Takayuki

研究フェロー



研究室ウェブサイト



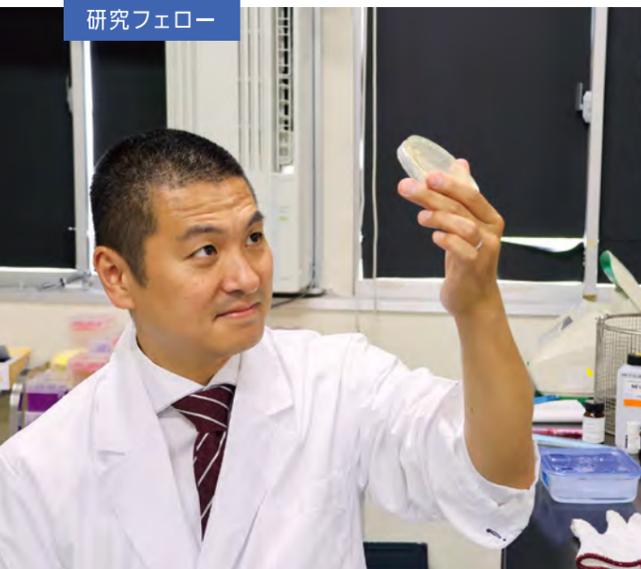
グリーン科学技術研究所  
工学部 化学バイオ工学科 教授

新谷 政己  
SHINTANI Masaki

研究フェロー



研究室ウェブサイト



## 人類の未来に深くかかわる プラスミドDNAの動態解明へ

微生物が持つ、プラスミドというDNAの研究をしています。プラスミドは、自律的に複製する能力を持っており、薬剤耐性など、微生物の生存に有利な性質を与えることがあるため、遺伝子操作やバイオテクノロジーの分野で広く利用されています。一方で、薬剤耐性の遺伝子が広がると、薬の効かない細菌が出現し、深刻な感染症問題の原因にもなるため、自然界における動態を知ることは人類の未来を考える上で極めて重要です。

しかし、多様な微生物が混在する環境では、「どこで、どのようなプラスミドが、どの微生物間を移動しているのか」はわかっていません。私たちはその解明に取り組んでいます。

海や山に囲まれ、さまざまな自然環境に恵まれた「微生物の宝庫」静岡県で、日々、未知の生命現象との出会いにワクワクしながら、その成果を社会に活かすことを目指しています。



## 研究 PRESS RELEASE



研究成果を発表して報道されたものをご紹介します 2025年8月～2026年1月

- 藤井基貴(教育学部)「静岡大学と丸石製薬の産学連携『災害時の感染対策』の教育ツールの開発について」
- 徳元俊伸(創造科学技術大学院/理学部)「プロゲステロン膜受容体の新規拮抗物質を同定 ―新規医薬品候補の発見―」他1件
- 長尾 遼(農学部)「カツオ主体の水産加工廃水を希釈・前処理なしで『藻類-微生物共生培地』に転換」他3件
- 塩田真吾(教育学部)「静岡県警人身安全少年課の監修のもと『いろいろな依存について考えてみよう』の教材を開発」他1件
- 野村肇宏(理学部)「ポータブル装置による世界最強110テスラ磁場発生とX線実験に成功」
- 坪内知美(農学部)「ヌクレオシド補給によるDNA複製速度上昇において新たなメカニズムを発見」
- 武田和宏(工学部)「AIが『隠れた化学反応』を可視化! ―有機合成を変える『潜在変数』アルゴリズムを開発―」
- 竹内 純(農学部)「種子が植食者の糞を感知して食害を回避 ―糞中成分が安全なタイミングでの発芽を可能にする―」
- 後藤寛貴(理学部)「クワガタムシ類のオス特有の大きなアゴはどうやって巨大化するのか?」他1件
- 峰野博史(グリーン科学技術研究所/情報学部)「高糖度トマトを容易に栽培できるエッジAI型の萎れ灌水制御に成功」
- 道羅英夫(理学部)「ミジンコの性はなぜ環境で変わるようになった? 幼若ホルモンによる遺伝子制御の『再配線』を発見」
- 山本泰生(情報学部)「AIで熟練度を『見える化』し、製造現場の人材育成を革新 ―ヤマハ発動機との産学連携研究―」
- 小野篤史(工学部)「準表面プラズモン共鳴の学理を構築 ―常識に捉われない柔軟な発想で光物理学の新領域を開拓―」

「任せて良かった」と言われる仕事をしたい



まえ だ あい か  
**前田 愛花 さん**

人文社会科学部  
(2021年3月卒)  
セキスイファミエス東海株式会社 (営業職) 勤務

1998年生まれ、静岡県立静岡高等学校卒  
趣味はロードバイク・カメラ・カフェ巡り  
好きな言葉は「置かれた場所で咲きなさい」

**幅広く学び、じっくり専門分野を選択**

静岡大学は地元ですし、さまざまな学部があって、専門分野以外で興味のあることも学べるので選びました。特に、社会学科は、時間をかけてコースを選択できる点が決め手の一つになりました。興味のある分野が幅広く、専門を決めかねていましたが、各コースを受講する中で、社会学科への関心が高まり、十分に検討した上で選択することができました。

**社会学のゼミで培った柔軟な思考**

社会学のゼミでは「夫婦の家事分担」を研究テーマにアンケート調査を行い、性別や年齢による価値観の違いについて分析しました。社会学では、一つの事柄をさまざまな角度から捉えます。こうした学びを通して身につけた柔軟な思考は、現在の仕事においても、お客様の価値観や好みを固定観念にとらわれず受け取る姿勢につながっています。

**誰かを笑顔にたくて「よさこいサークル」へ**

サークル活動は、「よさこいサークル お茶ノ子祭々」に所属していました。入学式で先輩方の演舞を観て憧れ、「私も誰かを笑顔にしたい」と感じたことがきっかけです。この「誰かのために」という思いは、現在の仕事の軸にもなっています。



声でよさこい演舞を支える役割をしていました

お客様のより良い暮らしのため、そして自分の仕事を支えてくれる会社のメンバーのために、自分にできることは何かを常に考えながら行動するよう心掛けています。

**暮らしに関わる仕事で、誰かの力になりたい**

現在、私の主な業務は、住宅のメンテナンスやリフォームのご案内、各種ご相談への対応です。「誰かの力になりたい」という思いと、暮らしに関わる仕事への関心から、この仕事に就きました。幅広い年齢や職業の方とお会いする機会が多く、日々刺激を受けています。お客様にご満足いただけたときは、やりがいを感じますし、「次も頑張ろう」という原動力につながっています。これからも信頼関係を大切に、「前田さんに任せて良かった」と思っていただけのような仕事を続けていきたいです。



お客様にリフォームのご提案をしています

**「今しかできないこと」を全力で楽しんで!**



趣味のロードバイク、山中湖での1枚

大学生は、自由で、選択肢がたくさんある時期だと思うので、サークル、研究(ゼミ)、留学、ボランティア、友人との時間、旅行、アルバイトなど、好きなことを全力で楽しんでほしいです。大学で培った経験は、これからの人生のどこかで必ず自分自身を支えてくれます。後悔のない大学生生活を送ってください!



前田さんが学んだ人文社会科学部について、くわしくはこちらから →

静大で培った研究力で、世界の農業に貢献を



いし わき けい た  
**石脇 啓太 さん**

農学部  
総合科学技術研究科 農学専攻  
(2021年3月卒)  
クミアイ化学工業株式会社 (研究職) 勤務

1996年生まれ、福井県立高志高等学校卒  
趣味は読書、登山  
好きな言葉は「丁寧に迅速に」

**静岡大学が拓いた研究職への道**

自然や化学について学びたいと考えていたので、学科や研究分野の多様さ、温暖で住みやすい気候風土に魅かれて静大農学部を選びました。その選択が、静岡にあるクミアイ化学工業で働くこと、研究職としての道へとつながりました。



新研究所で働いています

**研究者の素養を磨いた大学院時代**

大学院では、植物ホルモンに関する研究に取り組みました。化合物の有機合成や植物を用いた評価試験、統計的手法によるデータ解析など、幅広い研究プロセスを経験しました。



大学院研究室時代の同期たち

化学実験に関する基礎的な素養や研究の考え方を身につけることができた貴重な期間であり、現在の研究職の土台となっています。また、苦楽を共にした研究室同期とのつながりや、後輩への指導経験も、他では得がたい大切な財産です。

**学部行事の運営経験も役立っています**

在学中は、農学祭実行委員会に所属していました。大学祭とは別に、農学部独自で実施する農学祭や新入生向けの新歓行事などのイベント企画・運営に携わりました。多くのメンバーと協力しながら物事を進めた経験は、社会に出た今でも役に立っています。

**研究成果を社会につなぐ農薬製剤研究**

現在、農薬の製剤研究をしています。農薬の有効成分を、農家の方にとって安全かつ使いやすい形で製品化する仕事です。この仕事を選んだのは、大学で基礎的な研究に取り組んだ経験や、実際の製品開発に生かしたいと考えたからです。創意工夫を重ねながら課題を解決し、そこから得られた成果で、日本のみならず世界の農業に貢献できる点に大きなやりがいを感じています。日本の農業は今、高齢化や従事者の減少などの課題に加え、ドローンなどを活用するスマート農業への転換期にあります。私も、農薬製剤の研究者として、新たな効率化につながるような革新的な技術の開発に挑戦していきたいと考えています。



農薬製剤の試作の様子

**学生の皆さん、同期の仲間を大切に!**

大学での勉強や研究が、仕事に直接つながるとは限りませんが、大学で得た経験や物事の考え方は、必ず自分自身の土台となります。大学生の今だからこそ、幅広くさまざまなことに積極的にチャレンジしてください! 私は卒業して5年経ちますが、農学部や研究室、サークルの友人、そして同期とのつながりは一生ものだと感じています。最も身近な存在として切磋琢磨し合える同期の仲間を、ぜひ大切にしてください。



研究所の同期たちとの登山



石脇さんが学んだ農学部、総合科学技術研究科農学専攻について、くわしくはこちらから。 (左) 農学部 (右) 総合科学技術研究科農学専攻 →



## 静岡ロボットファクトリー 「レスコン2025」で全国優勝!



### ゼロからの再構築でつかんだ全国優勝

人命救助ロボットの技術やチームワークを競う「レスキューロボットコンテスト2025」で、静岡大学ロボットファクトリーが7年ぶりの全国優勝を果たし、最優秀賞のレスキュー工学大賞を含む4賞を同時受賞しました。コロナ禍で先輩からの技術継承が途切れた状態からの再出発でしたが、基礎から学び直し、時間をかけて高い制作技術を取り戻しました。勝因は、「得意分野を生かして設計・製作・調整を効率的に分担したこと」「ロボットを早期に完成させて操作練習と安定化に時間を十分かけたこと」「前大会での課題を一つずつ改善していったこと」です。

### ものづくりの楽しさを実感

限られた時間の中で試行錯誤を重ね、失敗を糧に心身ともに鍛えられながら、ロボットの完成度を高め、ものづくりの楽しさを実感しました。



大学祭でもロボットを展示

大会で活躍したロボットは、展示会やテクノフェスタ(大学祭)、地域の図書館などで展示し、多くの人に体験していただき、ものづくりの魅力を伝えています。

### チーム一丸で挑戦する楽しさ

学業との両立や意見調整には苦労しましたが、先輩への指導や話し合いを通じチームとして成長できました。大切なのは結果だけでなく、挑戦して学ぶ過程。失敗と改善を重ねて問題解決力や団結力が高まりました。今後は、技術の蓄積と継承に力を注いでいきたいです。



# 見つけた! 輝く静大生

部活動、研究、地域との連携...それぞれの

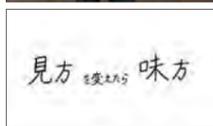
場所で挑戦を続ける静大生をご紹介します。

## NHK全国大学放送コンテスト 「映像CM部門」で第2位



放送研究会「Cue-FM浜松」の作品が第42回NHK全国大学放送コンテスト「映像CM部門」で94作品の中から全国第2位を受賞しました。放送・映像分野における国内有数の大会で、高い企画力、表現力、そして確かな技術力が全国レベルで高く評価されました。

受賞作には、「見方を変えて、物事を前向きに捉えれば、状況が好転し、味方になる」というメッセージが込められています。



## 工学部・能見研究室 衛星との交信に日夜奮闘中



STARS-Me2(蓬莱)  
2025年9月に国際宇宙ステーションから放出された「蓬莱」は現在、通信不具合に直面しています。

宇宙空間でアンテナを展開し、電波信号を送信する設計ですが、信号を確認できない状況です。

学生たちは、宇宙空間の衛星を直接確認できない中、作動を促す指示の送信を試したり、他機関と連携した光学観測で衛星の状態を把握したりしながら昼夜を問わず通信復旧に挑んでいます。

研究室では、本件以外にも複数の人工衛星開発を担っており、少人数で力を合わせながら責任ある運用と課題解決に取り組んでいます。



「蓬莱」開発メンバー

## 挑戦の歴史を受け継ぐ 山岳部が100周年記念企画展



### 山と向き合う喜び

山岳部では、登山やクライミング、沢登りなどを通じ、日々山と向き合っています。やりがいは、この部でしか見られない景色に出会えること。自分の足で山頂に立つことは何事にも代えがたい喜びです。厳冬期登山の完遂を年間の目標とし、体力作りや知識・技術の習得に加え、南アルプスや読図が必要な深南部での山行を通じて各自が目標を持ち挑戦しています。



### 100年の歩みを迎える企画展



旧制静岡高校旅行部の創立からの足跡を迎える企画展をOB組織「紫岳会」と現役部員が協力して開催

1923年に前身組織が創設された山岳部は、2023年に100周年を迎えました。コロナ禍による延期を経て、2025年10月に100周年記念特別企画展「ヒマラヤ 未知への挑戦の足跡」を開催しました。海外遠征をはじめ、先人たちの挑戦の記録を紹介し、歴史ある部の歩みを振り返る貴重な機会となりました。

### 歴史を受け継ぎ、未来へ

長い歴史の中で受け継がれてきたのは、登山技術だけでなく「一人のアルピニストとして自立する」という考え方。OB組織「紫岳会」が技術指導や合同での山行を通して知識や経験を次の世代に伝えていきます。大学生という限られた時間の中で山と向き合い続ける部員たちの挑戦を、これからも温かく見守っていただければ幸いです。



OBを交えた雪上訓練



## 静岡市の審議会から認定 “スポーツ&健康”まちづくり



グローバル共創科学部 杉山康司研究室は、静岡市スポーツ推進審議会がスポーツを生活に取り入れる活動を進める企業や団体を認定する「静岡型スポーツ・イン・ライフ推進パートナー」の認定を受

けました。杉山研究室が取り組んでいるのはウォーキングを軸とした「大谷・小鹿周辺ウェルネスシティづくり」です。これまで大谷・小鹿地区を中心に、地域の方々と協力しながら、ウォーキングコースの調査・提案、マップ作成、体力チェック、ニュースポーツ体験会などを学生主体で実施してきました。今後は、マップを掲載した体力チェック手帳の活用、ウォーキング・スポーツリーダー育成など、持続可能な支援体制の確立を目指し、地域連携による健康まちづくりをさらに発展させていきます。



体力チェックを実施



ウェルネスエリアMAPを作成



# 教育学部 特別教育専攻 石川研究室(病弱教育)



石川 慶和 准教授

(公認心理師・臨床発達心理士)

ここは教育学部の研究室ですが、学ぶのは「教科書の教え方」ではありません。私たちの研究室では「病気の子もたちが、どうすれば自分らしく学び続けられるか」を研究しています。療養生活は家族や友達と離れ、孤独との戦いになりがちです。そんな時、子どもたちにとって「学び」はただの勉強以上の意味を持ちます。それは社会とつながる窓であり、未来を照らす希望です。教室の中だけでは見つからない答えを、子どもたちのそばへ見つけにいきませんか。

## Keyword

### 自己調整学習 (Self-Regulated Learning)

病気や治療、体調など「自分ではどうにもできないこと」が増えると、子どもは無力感を感じやすくなります。だからこそ、私たちは学習という「自分でコントロールできる活動」を大切にします。一方的に教えるのではなく、子どもと一緒に体調に合わせて目標を立て、ペースを調整することで、自律的に学ぶ力を育てていきます(共同調整)。その力が、病気という経験を「ハンディキャップ」ではなく「強み」に変えていくのです。



最初は大学生と一緒に、体調や気持ちに合わせた「学びの作戦」を立てる。それがいつしか、自分一人で未来を切り拓く力に変わっていく。私たちは、その「きっかけ」を作るパートナーなんだ。

#### 卒業論文のテーマ

- ・病気療養児の学びを支える環境調整および自己調整方法の検討
- ・病弱学級教員の専門性獲得のプロセス  
—病弱学級内の実践知共有システムの検討—
- ・病気療養中の対人交流が子どもの学校適応感に与える影響
- ・病気療養児の自己調整学習を促す学習支援の在り方
- ・入院治療を経験した子どもの病気説明および友人からの質問への対処

#### 卒業後の進路

- ・特別支援学校教員: 知的・肢体不自由・病弱など各障害別の学校で教員になります
- ・小中高等学校教員: 通常学級や特別支援学級など、特別支援教育を担う教員として活躍します
- ・児童指導員: 児童福祉施設などで、生活指導、学習支援、自立支援などを行います
- ・公務員: 地方自治体の福祉課や子育て支援課などで働きます
- ・大学院: 特別支援教育の専門性を高めるために進学する人もいます

「うまくいかない日こそ、学びのチャンスだ！」  
マニュアル通りの正解なんてない。迷って、悩んで、子どもと一緒に強くなる。

子どもたちの「待ってたよ」の笑顔に救われます。



#### Action 01

### こども病院での学習支援 —「自ら学ぶ力」をデザインする—

「今日はやりたくない」弱音を吐けるのは信頼のサイン。「じゃあ何なら楽しい?」と対話を重ね、時にはおしゃべりしたり、ゲームをしたり。体調に合わせた活動をサポートすることは、病気というハンデを、自律的に生きるための武器へと変える挑戦です。



#### Action 02

### 夏の病院ボランティア —待ち時間を、ワクワクする時間へ—

夏休み、混雑する病院の待合室。そんな退屈で不安な時間を楽しい時間に変えます! 宿題と一緒に取り組んだり、折り紙や塗り絵で遊ぶことも。病院全体をポジティブな空間に変える「環境へのアプローチ」を実践します。



#### Action 03

### 心臓病の子どもキャンプ —家族支援の「リアル」を体感せよ—

楽しい時間を共にする中で意外な事実気づきます。子どもたちと遊んでいる間、保護者の方もリラックスした笑顔になるのです。子ども支援は「家族支援」にもなる。病気のこと、家族の想い、きょうだいの葛藤など、教科書には載っていない「支援のリアル」を肌で感じる2日間です。



たくさんあそんで、夜は恋バナもして。病気があっても子どもは子ども。その事実にはハッとしました。

全国の熱い学生と出会ってモチベーション上がり!



#### Action 04

### 学生フォーラムへの参加 —全国に広がる「学びのわ」!—

病院学生ボランティアが集う「wacca!」に参加。北は北海道から南は愛媛まで、同じ志を持つ約30名の仲間が集結します。ワークショップで熱く語り合ったり夜は懇親会で盛り上がりたり。「自分たちの支援はこれでいいの?」そんな迷いも、仲間と共有すれば解決の糸口が見つかります。

## Welcome to Ishikawa Zemi!

—みんなで読めば怖くない!—

「専門書なんて難しそう…」と不安な人も大丈夫。ゼミでは本や論文の読み方・選び方からスタートします。同じ本を読んで議論すれば、一人では気づけなかった発見が必ずあります。ここで出会う仲間は、一生モノです!

専門書、最初は難しくて絶望したけど(笑)ゼミのみんなと議論しながら読むと面白い発見がいっぱい!





凍てつく冬の最中に、手放せない一杯のコーヒー

## Vol.10 優れた技術者になり 人々に貢献したい

アンドレ シンプル(インドネシア出身)  
総合科学技術研究科 情報学専攻(2017年卒業)  
2017年10月よりヤマハ発動機株式会社(エンジニア)勤務

静岡大学は、ABPによる経済的支援に加え、生活しやすい環境や豊富な研究資源、就職サポートやネットワークが充実していることから、進学を決めました。大学では、聴覚障害者支援を目的とした研究に取り組みました。周囲の重要音声を検出・方向推定できるように、2つのマイクを用いた簡易な装置を低コストでつくり、機械学習

により音声と雑音を高精度に分類する手法の研究です。英語や日本語での議論や国際共同研究を通じて専門性を高めるとともに、自分の将来を見据え、日本で働くために必要な知識の獲得や能力向上にも力を入れました。留学を通じて、多国籍の仲間と議論したり、異なる視点に触れたりしたことで、考え方や発想力が広がり、学ぶ楽しさを実感できました。将来は、現在の職場で工場の自動化に役立つ製品を開発し、多くの人々に貢献したいです。



インドネシア・ジャワ島のプロモ山に登った日。標高2,329mの活火山にて



バリ島のナシチャンプル。香り高いスパイスと多彩なおかずが並ぶ一皿



アジアブリッジプログラム(ABP)は、静岡県とアジア諸国の架け橋として活躍する人材を育成するため、企業や自治体と連携して、静岡大学で学ぶ留学生を応援しています。ご支援いただいている企業の皆様のおかげで、昨年開講10周年を迎えることができました。



ABPについて



ABP10周年記念特設サイト

## プロジェクト vol.2 研究所レポート

プロジェクト研究所は、学内研究者の連携や産学官連携を促進し、自主的な研究活動を支援する静岡大学独自の制度です。学部を越えた連携や企業など外部の研究者との連携により、未来をリードする新たな研究が生まれています!



### ピアノとウェルビーイング研究所



ピアノは芸術的価値にとどまらず、人々のウェルビーイングに寄与する大きな可能性を秘めています。国内三大楽器メーカーを擁し、ピアノ製造において国内シェア100%を誇る静岡県の国立総合大学としての強みを活かし、地元の楽器メーカーやピアニスト、調律師との連携のもと、領域横断的にピアノにまつわる研究を行っています。ピアノ文化の振興と、ピアノを通じたウェルビーイングに資する新たな価値の創造を目指します。



テクノフェスタでの研究所コンサートの後、クラウドファンディングピアノを囲んで



研究所長  
人文社会科学部  
**安永 愛 教授**

研究所WEBサイト



・産学連携  
・地域連携  
・学際研究  
・ピアノ  
・ウェルビーイング

### キノコ科学研究所

現在、私たちが生きる地球は、地球温暖化や人口増加、環境破壊、パンデミックなど、一朝一夕には解決出来ない複雑な課題を抱えています。これらの課題の解決に向けて、多彩な機能や現象を有し、無限の広がり可能性を秘めた「キノコの力」に着目し、多様な専門分野の研究者が集結して、研究を展開しています。キノコの生理機能から応用利用に至るまでの総合的な知の集約を図り、キノコ研究における世界的拠点を目指します。



キノコ科学研究所のイメージ図「キノコの力で未来を育てる」



研究所長  
グローバル共創科学部  
**平井 浩文 教授**

研究所WEBサイト



・フェアリー化合物  
・機能性成分  
・バイオレメディエーション  
・バイオリファイナリー  
・キノコ毒



# Shizudai Mini News

## バッテリー交換式EV 実証実験に参画

静岡大学は、2025年11月に静岡市や地元企業など10団体と、再生可能エネルギーの地産地消と地域防災力強化を目的とした「バッテリー交換式EVの利用とバッテリーシェアリングに関する実証実験協定」を締結しました。2021年に「静岡大学SDGs宣言」を発表し、大学全体で取り組みを進めています。本学では、超小型EV「クロスケ」を学内郵便物の配送に導入し、エンジン車との性能を比較して環境負荷低減効果を検証しました。バッテリー交換式EVの実務利用やビジネスモデル検証を通じ、環境負荷低減と地域防災の両立を図ります。



日誌一幸学長と超小型EV「クロスケ」

## サステナブルキャンパス賞 2025「奨励賞」を受賞

静岡大学は、「サステナブルキャンパス賞2025大学運営・地域連携部門」において、「奨励賞」を受賞しました。2025年11月に行われた授賞式では、堂園俊彦サステナビリティセンター長による受賞事例講演も行われました。サステナブルキャンパス賞は、持続可能な環境配慮型社会の構築とSDGs達成への貢献を目的に2015年度から実施され、大学などの高等教育機関における教職員・学生・企業などによる取り組みを表彰する制度です。本学の受賞事例は「連携を加速するカーボンニュートラル推進体制の構築と展開」。学際的連携による「カーボンニュートラル宣言」や「アクションプラン」の公表、「カーボンニュートラル特別教育プログラム」の実施により、すべての学生が自分の専攻と並行して関連科目を受講できる仕組みを構築したことなどが高く評価され、今回の受賞に至りました。



堂園俊彦 サステナビリティセンター長

## 情報学部・工学部・電子工学 研究所と浜松医科大学が 部局間包括協定を締結

2025年11月、教育・研究等の機能強化と事業の発展を目指し、部局間包括協定を締結しました。静岡大学「未来創成ビジョン」で定めた9つの目標のうち「G1.ソーシャルウェルネスの実現」「G3.イノベーションの創出」「G4.スマートコミュニティの実現」推進のため、情報学部・工学部は浜松医科大学医学部、電子工学研究所は浜松医科大学光医学総合研究所との協定を締結し、密接な連携・協力を図ります。今後は、「医・工・情報連携ワークショップ」の開催や、集中講義の共同実施、単位互換、課外活動の交流など、これまでの連携をより深化させていきます。多様な背景を持つ学生同士の交流により幅広い視点を育むとともに、連携による共同研究を推進し、静岡県、日本、世界への貢献を目指します。



静岡大学  
未来創成  
ビジョン



(写真左より)青木徹電子工学研究所長、尾内康臣光医学総合研究所長

## 静岡大学構内古墳群 第11号墳を発掘・公開

静岡大学キャンパスミュージアムと人文社会科学部考古学研究室では、「博物館DXによるキャンパスミュージアム(大学丸ごと博物館構想)の再構築」の一環として、静岡キャンパス構内にある「静岡大学構内古墳群第11号墳」を再発掘しました。第11号墳は7世紀頃の横穴式石室を持つ古墳で、1996年にキャンパスミュージアムの学術資料整備の一環として公開を目指して発掘されたものの、整備がかなわず埋め戻されていました。現在、可能になった3Dなどのデジタル技術を用いた記録を作成し公開する目的で再発掘を行い、2月に石室の公開、ドローン撮影や3DスキャンなどのDXワークショップを行いました。



古墳の説明を行う篠原和夫教授(人文社会科学部)

## 地域創造学環フィールドワーク 総括フォーラムを開催

地域創造学環のカリキュラムの柱であるフィールドワークは2024年度で概ね終了し、9年間の取り組みの総括として2025年12月に「フィールドワーク総括フォーラムー地域・学生・教員が集い、振り返るー」を開催しました。フォーラムでは太田隆之教授をコーディネーターに、協力地域の方3名と卒業生3名が登場し、パネルディスカッションを行いました。卒業生は現在の仕事や生活でのフィールドワーク経験の活かし方、地域の方々へ学生受け入れによる地域への影響や当時の思いを語りました。当日は北海道・関東・関西など遠方からの卒業生を含め、約80名が来場。フィールドワークの意義を改めて共有する、有意義な場となりました。



卒業生が登場したパネルディスカッション

## 静岡キャンパス⇄JR静岡駅 「連節バス」運行開始

2026年4月より、静岡大学静岡キャンパスとJR静岡駅を結ぶ連節バスの運行が開始されます。本路線は、平日6往復、JR静岡駅前から三菱電機前を経由し、静岡キャンパス構内に新設する「静岡大学図書館前」バス停までを直行で結びます。導入する車両は、二つの車体を連結した「連節バス」で、従来車両と比べて約1.5倍に定員を増強して輸送効率を引き上げています。連節バスが路線バスとして運行されるのは静岡県内で初めてのことです。車両にはハイブリッド車が採用され、環境負荷の低減にも寄与します。



運行開始する連節バス